

全産業 経常利益18%増

法人企業統計 7～9月期で最大

財務省が一日発表した七

九月期の法人企業統計は、金融・保険業を除く全産業の経常利益が前年同期比18・3%増の十九兆八千九十八億円だった。前年同期比のプラスは七・四半期連続。統計を取り始めた一九五四年以降、七～九月期として過去最大となった。新型コロナウイルス禍からの経済活動の再開や円安進行で、大企業を中心に幅広い業種で利益が伸びた。

製造業の経常利益は35・4%増の九兆六千二百四十四億円。自動車など「輸送用機械」が約二・七倍と大幅に伸びて全体をけん引した。サプライチェーン（供給網）の混乱や半導体不足による生産への影響が和らいだ。原油価格の高騰が響いた「石油・石炭」は41・

8%減と落ち込んだ。

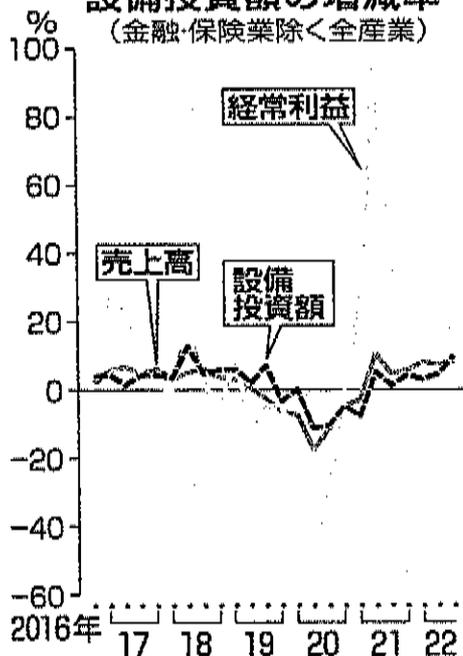
非製造業の経常利益は5・6%増の十兆一千七百八十四億円。コロナ禍で低迷していた観光や宿泊を含む「サービス業」が59・8%増となり回復が目立った。全産業の伸び率は前年同期の35・1%から鈍化した。

景気の先行きに対する企業の見方を反映する七～九月の設備投資は全産業で9

・8%増の十二兆十七億円。12・8%増だった二〇一八年四～六月期以来の伸び率となる。売上高は8・3%増の三百五十兆三千六百七十一億円だった。

第一生命経済研究所など民間シンクタンク七社は法人企業統計を踏まえ、七～九月期の国内総生産（GDP）改定値の予測を発表した。物価変動の影響を除いた実質の七社平均は前期比で年率0・9%減となり、速報値の年率1・2%減から小幅に上方修正されたと見込んだ。改定値は内閣府が八日に発表する。

売上高と経常利益、設備投資額の増減率
(金融・保険業除く全産業)



※四半期ベース、前年同期比